

特集 自ら学ぶ子どもたちを育てるために

英語学習における 自主的な学びを育む工夫

和田 憲明

(神戸大学発達科学部附属住吉中学校)

1. 中学生の学び方の指導

中学校では、教師に指示された通りに学習するだけでなく、自分で計画を立てて自主的に学習に取り組むことが求められる。生徒が自主的に学習を進めるためには、学び方の基礎を身につけていることが必要となる。

まず、教科横断的な学び方について触れたい。本校では、中学校入学時に、以下に挙げる、学習する上で必要な学び方の指導を行っている。

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| ①各教科や総合的な学習の学び方 | } 学び方の基礎に
当たる |
| ②ノートのととり方・時間の使い方 | |
| ③新聞・インターネットの利用な
どの情報の集め方 | } 学び方の発展に
当たる |
| ④プレゼンテーションの仕方 | |
| ⑤自由研究の進め方 | |
| ⑥新聞作り | } 総合的な学習の時間で指導する |
| ⑦発表の仕方 | |
| ⑧小集団学習・協同学習 | |
| ⑨リーダー学習 | |

①～⑤の項目は、学び方読本『How to Study 豊かな学びを育む』（神戸大学発達科学部附属住吉中学校著、明治図書）としてまとめ、生徒に持たせ活用させている。本書は、各教科の授業や学級の時間においても「学び方指南」となるもので、たびたび取り出して参照するようにしている。

⑧の小集団学習は本校の特徴的な学び方で、4人のグループで協力して学習するシステムである。リーダーを中心に話し合いや問題解決学習に取り組む。最近では、小集団学習に協同的な学びの要素を取

り入れて学習を進めている。ほかに本校の特徴的な学び方としては⑨のリーダー学習が挙げられる。本校では、授業の最初の5分間は教科リーダー(教科係)が運営することになっている。教科リーダーは前時の学習内容から問題を作成し、事前に教師のアドバイスをもらってリーダー学習を進める。教科リーダーは、毎学期原則として本人の希望を優先して決めることになっており、その指導も毎学期始めに時間を確保して行っている。(英語の授業における小集団学習とリーダー学習については3で触れる。)

2. 英語の学び方の指導

本校英語科では、各学年の最初の1～2時間を使い、その学年の英語学習のガイダンスを行っている。特に1年生に対しては、英語を学習する目的や意義を一人ひとりに考えさせることから始めて、英語の学習内容、授業の流れ、ノートのととり方や家庭学習の仕方といった学び方を指導することになっている。

英語学習の目的としては、外国語を学ぶことで、外国の人々の生活や習慣、考え方などを知ることができること、自分の国のことばを見直し、大切にすることを養うことができること、を生徒に示すようにしているが、生徒それぞれの意義付けを大切にしているようにしている。また、英語を学習する上で次の点を大切にしよう指導している。

- ①教師やCDなどの発音をまねること。恥ずかしがらずに大きな口ではっきりと話すこと。
 - ②毎日繰り返し練習すること。
 - ③学習したことを使って、自分で話したり書いたりすること。
- その他、3年間の具体的な学習内容や言語活動、

実際の授業の流れ、家庭学習などについてのガイドンスを行っている。

家庭学習については、その重要性を教えるとともに、繰り返し練習することを大切にすることや、予習・復習の具体的な内容やそのポイントを指導している。復習のポイントとしては、「主題とねらい」(本校のカリキュラム)に沿って、その日の学習内容を確認すること、教科書本文を音読し暗唱練習をすること、ノートをわかりやすく整理することを挙げるようにしている。また、さらに余裕のある生徒に対しては、練習問題に取り組んだり、学習した文型を用いて自己表現をしたりするなど、発展的な学習を促している。

3. 学び方を生かした授業実践

次に、これらの学び方指導を生かした英語授業実践を紹介する。

(1) スピーチ発表

本校英語科では、各学年の学習レベルに応じて、自己紹介や Show & Tell などさまざまなスピーチ発表に取り組ませている。ここでも学び方指導を行っている話し方・聞き方の指導が大いに役立っている。生徒は、話し方・聞き方の練習で身につけたことを生かして、憶することなく英語のスピーチ発表に取り組んでいる。

(2) リーダー学習

他の教科と同じように英語の授業も生徒自身の運営によるリーダー学習で始まる。リーダー学習の内容としては、既習の文型や句語の復習が多いが、辞書を引いて競争して単語を調べさせたり、友だちに英語で自己紹介をさせたりといった活動的なものや、Listening Test やクイズ、ゲームといったものまでさまざまな内容が見られる。

リーダー学習の利点としては、生徒が主体となり授業を開始し進めることである。また、教科リーダーはリーダー学習の問題を作るために授業に真剣に取り組むようになる。また同じクラスメートが進める授業に、生徒は意欲的に取り組むものである。

(3) 学習成果をまとめる

学び方指導の中で、生徒は学習成果をまとめるいくつかの方法について学習するが、これらは実際の

学校生活や行事のまとめとして使われる。英語授業の中でもこれらの活動を取り入れることにしている。例えば、3年生では日常生活や行事のまとめとして英字新聞作りに取り組ませている。5月に行われる修学旅行の成果や体育祭や文化祭といった生徒にとって思い出に残る行事の振り返りを新聞としてまとめさせている。いずれの場合でも、生徒は自分たちの体験した感動を英語を通して一生懸命伝えようとする。また、作成した新聞の内容をニュース風に発表する活動も行っている。映像や画像を効果的に活用して、生徒はニュースを仕上げている。ニュース発表の仕方学び方学習の中で行っている。

(4) 小集団学習

最後に、本校の特徴的な学習である小集団学習を取り入れた実践を取り上げる。

英語科としては、他の教科のように話し合いの形態として小集団学習を活用する場面は多くはないが、問題解決学習として利用する場面は多い。例えば、1年生であれば、単元「世界の国や町を紹介する」において、小集団で選んだ世界の国や町を紹介する活動に取り組んでいる。2年生では、単元「英語の物語を読む」において、小集団で協力して選択した読み物を読んでその内容を紹介する活動を行っている。また自分たちで課題を選択して取り組むコース学習「地球へのアピール」では、小集団で協力して地球を守るためのメッセージ作りに取り組むことになっている。これらの活動においては、全て学び方学習で経験している小集団学習や協同学習のルールがその基礎となって生きている。

また、問題解決学習以外の授業場面でも、小集団学習を生かせる場面がある。小集団で教科書本文の音読のチェックをさせたり、テスト直しの教え合い学習をさせたりすることも可能である。また小集団で役割を分担して英語劇を演じさせたり、小集団内でスピーチ発表を行わせることによって、同時に多くの生徒を活動に参加させることができる。

生徒は、自ら学ぶ方法を身につければ、教師が想像する以上の力を発揮するものである。生徒の可能性を信じて、生徒に活動を委ねる部分をできるだけ多く授業に取り入れていきたい。